

みなさん、こんにちは。今日、いよいよ、皆さんの久留米大学附設中学校の卒業式となりました。保護者の皆様にも、大変お喜びのことと存じます。

生徒諸君、保護者の皆様、大変おめでとございます。

さて、この式には、皆さんの義務教育の卒業式という意味があります。しかし、皆さんは、原則として、附設高校に進学されるわけですから、附設生活での通過点に過ぎないとも言えます。いわば、二つの意味があるわけですが、一体、どちらの意味で、この式はめでたいのでしょうか。昔なら、洋の東西を問わず、大人として認められるための儀式は、一五歳前後に執り行われました。この卒業式も、まさに、大人として認められるための通過儀礼として、自律的な附設高校生に成長するための覚悟を求めるものになっていると思います。

皆さんは、もはや中学生ではないことの意味を噛みしめるところから始めなければなりません。皆さんは、平成二三年四月四日、附設中学校に入学したときのことを覚えていますか。あのときは、東日本大震災が起きてから、まだ、一箇月も経っていませんでした。入学式の式辞では、この大震災が世界の在り方に及ぼした影響の本当の姿は一〇年後二〇年後に明らかにしてくるだろうと予測し、附設の建学の趣旨の解説を経て、皆さんが、そういう新しい世界を担うことになるという自覚を求めたと思います。その後三年間の附設中学生生活を通じて、皆さんは、古くならないもの、陳腐化しないもの、つまり、一生の基本になるものとして、どんなものを身に付けたでしょうか。

これからは、自律的な附設高校生として、どうあるべきか、皆さんは考えなければなりません。もちろん、高校生になると、目先に、大学入試がちらついてくるのは仕方ありません。皆さんもそうだろうし、保護者の方々もそうでしょう。かくて、皆さんは、周辺の意見を聞いたりしながら、進路を、ある程度の実感を伴うまでに狭められてきてはいると思います。とは言え、幸いというべきかどうかはわかりませんが、皆さんの人生は保護者の方々の人生とは同じではないので、最終的には、皆さんは、大雑把でも自分自身で納得できる人生設計の見通しを立てなければなりません。しかし、皆さんにはまだ見えないからと言って、この先の大学入試だけに目標を絞ってしまうのは、どう考えても合理的ではありません。

考えてもみましよう。先ほど、東日本大震災後二〇年後の世界と申しましたが、それを考慮に入れず、今後も今と余り変わらず、人生八〇年のままとして、皆さんは今一五歳、大

学にすんなり入ったとして一八歳、その先、いろいろな経路があるにせよ、職業生活において一人前の活動ができるのが三〇歳から六〇歳くらいの三〇年余りとなり、さらに、二〇年くらいの余生があるというわけです。すると、一番大事な三〇年間や、あるいは、その後の二〇年間を立派に過ごすことがいかにも大切な目標になります。

つまり、皆さんは、これからの三年間だけ頑張れば、後はその利息で食べていけるというわけではないので、実際、その後も、ずっと頑張り続けるというか、むしろ、自然に、大きく強く、成長できるようなのではないといけないわけです。一生は自己研鑽の継続であるというわけなのですが、特に、大事なのが一〇代の末から二〇代の半ばくらいまでの期間で、なかでも、一〇代の後半、本当は一七、八歳から二〇歳くらいまでの間に、どのくらい意味のある、重厚な勉強ができるか、その上で、二〇代の前半、特に、二四、五歳くらいまでに、本質に深く関わる新しい発想を洞察し、提起できるかが鍵になりましょう。もちろん、能力とか運、巡り合せも無視のできませんが、それでも一〇代後半から二〇代前半の過ごし方の質こそが、ほぼ一生を決めてしまうということではできると思います。

今の日本の教育システムは、残念ながら、こういう意味で人を育てていくという機能が十分ではありません。しかも、以前よりも大分劣化しているとも言えるでしょう。皆さんを含めて、今の日本の青年は大変な悪条件のもとにいることは、承知しておいてほしいのですが、なおのこと、一人ひとりの自覚的な努力が重要になります。

要するに、ないものねだりをしてもし方がありませんので、皆さんにお願いしたいのは、なかなか理想的な環境はないのだ、という現実を踏まえながら、それでも、着実に前に進んでいくという姿勢を将来にわたって忘れないでいただきたいということに尽きます。そのためには、ありふれているようですが、高い志、つまり、皆さんの一人ひとりが一生の間、何を実現したいのか明確にすること、このことが一番大事なことです。この一生の間に実現したいこと、ひとつとは限らないかも知れませんが、それを、おぼろげながらも、附設高校での学びの間につかんでいただけたら、とても嬉しいと思います。

皆さんに期待しています。

平成二六年三月二〇日

久留米大学附設中学校 校長

吉川 敦